

# 令和3年度 中城ごさまる科 自己評価の結果

教育課程特例校 中城村立中城南小学校

## 1 目的

本村の幼小中学校において、地域の歴史・文化に係る地域素材を積極的に教材化し、特に本村が有する世界遺産「琉球王国のグスク及び関連遺産群」の一つ「中城城跡」とその城主「護佐丸」を素材に取り上げ、「中城ごさまる科」の授業とともに本村の文化を学ぶことで、中城の歴史と文化、世界遺産を有する本村について触れ、郷土の理解を深めることや郷土への誇りと愛着を育み、自らの目標に向かって学び続ける児童の育成を目指す。

## 2 概要・実績

- ・本事業は、村内全ての小学校を教育課程特例校として申請し、平成26年度から「中城ごさまる科」を導入して8年目を向かえる。副読本・指導書・教材DVD等を作成し、故郷の歴史・文化・自然を通じた学習を行う。
- ・中城ごさまる科の児童アンケートでは、「地域の歴史を学ぶことで、日本史など広く歴史を学ぶ意欲の向上に繋がった(93%)」「自分の住む町に親しみがある(95%)」「自分で調べたことを自分の言葉で発表できた(92%)」と回答し、教師の振り返りアンケートでも「大変よかった」「よかった」との肯定的意見(98%)だった。

## 3 村内小学校の共通した効果及び成果

- ・年4回の中城ごさまる科の担当者を対象とした研修を実施し、各校の取り組みの方向性と学習進度を確認できたことで、学校が主体的に取り組むことができた。
- ・学習内容を新学習指導要領に沿った内容に整理し、文部科学省へ変更手続きを行った。そのことによって、学習内容が6年間を通して系統化されて学習しやすくなった。
- ・指導主事が各学校へ訪問し直接助言ができたことで、中城ごさまる科の学校間差がなくなり、中城ごさまる科の年間指導計画の見直しや、「中城教育の日」での発表方法等の情報交換がスムーズにできたことで、授業改善に生かすことができた。
- ・三学期に成果報告会を実施し、子供達の学びを披露できたことで、「中城ごさまる科」の取り組みの理解が深まった。

## 4 児童の興味・反応、保護者の反応など

### 【1年】

- ・護佐丸や中城グスクについて学び、護佐丸の人柄や想いに関心持つことができた。また、歴史資料館の見学を通して、自分の身近なことや場所に興味・関心を高めていた。特に、「中城グスクを実際に見てみたい。」という声が多くあった。
- ・中城グスクの増築、3種類の石積みの特徴など、中城グスクの特徴にもとても興味を持って いた。

### 【2年】

- ・護佐丸の人物像に興味・関心を持つことができた。
- ・学習して学んだことを各自、新聞にまとめることができた。
- ・学芸員さんの話を聞いて、理解を深めることができた。
- ・保護者の声を聞くことができなかったので、次年度は保護者への発信をしていきたい。

### 【3年】

- ・中城城の城の作り(城郭、石積み)を深められた。
- ・城作りの名人、護佐丸の功績を再確認できた。
- ・世界遺産になったいきさつを調べられた。
- ・中城城を保存するために、活躍している人の仕事内容を理解できた。
- ・発掘や保存するために働いている人のことをもっと取り上げたかった。

### 【4年】

- ・中城城跡を守り活かしたむらづくりを推進していることが理解できた。
- ・地元中城村の独自の良さや伝統・文化を認識できるようになってきた。
- ・中城城跡だけでなく、中城村にある魅力的な観光スポットを発見することができた。
- ・社会科「地域で受け継がれてきたもの」と関連させて、学びをより深めることができた。
- ・コロナ禍のため、外部講師等呼んでの学習ができなかった。
- ・毎年教師の入れ替わりがあるため、実践記録などの引き継ぎが必要。
- ・ごさまる科について特別の教育課程が設定された目的やその背景など、外部講師を活用しながら共

有する必要がある。

#### 【5年】

- ・前学年までの学習により、中城ごさまる科への興味関心は高く、音読劇にも意欲的に取り組んでいた。
- ・CDのお手本を聞くだけで状況が想像でき、練習に役立った。
- ・音読を通して、中城ごさまるの人柄、思いやりについて、自分達の地域の先人として誇りに思う姿が見られた。

#### 【6年】

- ・社会科の学習で日本の歴史を学んでいるので日本と琉球とのつながり、アジアと琉球のつながり、自分達の地元である中城村にもつながっていることに興味をもって取り組んでいた。
- ・ごさまる科で琉球の歴史を学んだことで、歴史が遠い昔のこと・・・ではなく、今につながっていることに気づくことができた。
- ・今年度は当初コロナ禍のため、護佐丸歴史資料館での学習や、中城城跡に学年で足を運ぶことができず、体験から歴史を学ぶ機会が減った。学校の図書館や護佐丸歴史資料図書館から資料を借りたりインターネットでの検索中心で学んだ。

### 5 学校関係者の評価

- ・年4回の中城ごさまる科の担当者を対象とした研修を実施し、各校の取り組みの方向性と学習進度を確認できたことで、学校が主体的に取り組むことができた。
- ・学習内容を新学習指導要領に沿った内容に整理し、文部科学省へ変更手続きを行った。そのことによって、学習内容が6年間を通して系統化されて学習しやすくなった。
- ・指導主事が各学校へ訪問し直接助言ができたことで、中城ごさまる科の学校間差がなくなり、中城ごさまる科の年間指導計画の見直しや、「中城教育の日」での発表方法等の情報交換がスムーズにできたことで、授業改善に生かすことができた。
- ・3月に、成果報告会を実施し、子供達の学びを披露できたことで、「中城ごさまる科」の取り組みの理解が深まった。

### 6 【課題と対応策】

(課題) 教職員の転出などにより、「中城ごさまる科」の理解に時間がかかる。

対応策→教育委員会による「中城ごさまる科」の研修を各校で実施し、更なる充実を図っていく。

(課題) 本事業スタート時の状況と違い、協力団体が減ってきている。

対応策→「中城ごさまる科」の教材本を改定し、学校が主体的に取り組めるよう実施方法の見直しをさらに進めていく。